



R4.2.22

今月のキーワード

ルーティーンを見直そう①

学年末になりました。子どもたちにとっても先生方にとっても、まとめの時期であるとともに、1年間を振り返り、次年度へと学びをつなげる大切な時期です。小学校では英語が教科化となり、早くも2年が経とうとしていますが、小・中学校で一貫した指導について考えるうえでも、自身の授業で何気なく取り組んでいることを見直してみることも大切だと考えます。よりよい授業づくりへ向けて考える機会となれば幸いです。

ルーティーンを見直そう①

見直し1 授業の開始時の英語でのやり取り

授業の開始時、英語の表現に慣れ親しむという目的で、先生やALTは子どもたちと How are you? How is the weather? といったやり取りをしていると思います。日頃から行っている活動で、子どもたちにとって慣れ親しみのあるものですが、小学校で十分に行ってきたとすれば、中学校において同じ活動は必要でしょうか。 **子どもたちの実態に合わせて、必要があれば継続する、全ての児童生徒が理解できている内容であれば、少しずつ負荷をかけて違う表現を取り入れていくなど、1文ずつバリエーションを増やしていくことをお勧めします。**

『英語教育1月号』（第一特集P8）では、“What’s the date today?” と尋ねると “I’m not a calendar.” 更に “How is the weather today?” と尋ねると “Look out the window.” という返事が戻ってくるという、ある学校でのAIロボットとの会話例が掲載されていました。

先生やALTとの会話一つ一つが、子どもたちにとっては大切なインプットです。 必然性を伴ったコミュニケーション場面を一つでも多く授業の中に取り入れていきましょう。



見直し2 先生の立ち位置

授業で子どもが発話しているとき、先生方はどの位置に立って、子どもの声を聞こうと意識されているでしょうか。おそらく先生方はクラス全体を見渡せる位置で、全員の子どもの様子や反応を見ながら授業を進めていると思います。先生が**子どもの座席の側まで行って話を聞くことで、子どもの声が小さくなり、先生との1対1で授業が進んでいるかのように見えてしまう**場合があります。「大きい声で」という指導も必要ですが、**先生の立ち位置を意識していくことで解消できることもあるかもしれません。**



見直し3 「めあて」の提示のしかた



新学習指導要領に基づく観点別評価（特に【知識・技能】と【思考・判断・表現】）を着実に実施し、評価していくために、「めあて」と「振り返り」の整合性を意識しながら、日々の授業をされていることと思います。

例えば、めあてを「自分の好きな季節について相手に伝えよう」と示したとします。この場合、「伝えることができる」が評価規準となり、言語材料を用いて正しく伝えることができること（＝【知識・技能】）を評価することになります。

一方、【思考・判断・表現】を評価したい場合には、工夫したこと（＝【思考・判断・表現】）を見取るために「どのように」（How）伝えることができたか（つまり、「どのように伝えること」を「めあて」とするかを示しておくこと）が大切です。



例：めあて 【思考・判断・表現】

「自分のことをよく知ってもらうために好きな季節について、相手に分かりやすく伝えよう。」

工夫として考えられることは・・・絵や写真、ジェスチャーを使って、例を出しながら、質問しながら など

→これらが、子どもたちにとって自己評価（振り返り）をする視点となり、「めあて」と「振り返り」の整合性を図ることができます。

見直し4 教科書の取扱い



中学校は、今年度から新学習指導要領準拠の教科書を使用しています。語彙数なども増え、教科書本文の内容理解を終わらせることに意識が行きがちですが、一度学習した内容に再び戻る（変化を付けて、繰り返し学習すること）も効果があります。教える側は、「既に一回教えた」と思いがちですが、子どもたちに定着するまでには、かなりの時間と粘り強さが必要です。既習単元を、違う活動を通して復習する（要約文を作る、自分の考えをプレゼンテーションする、物語の続きを考える etc・・・）ことで、子どもたち自身も新たな気付きや発見があるかもしれません。



年度末の見直し（お願い）とR4年度新事業のお知らせ

・各学校で作成している学習到達目標について、教科部会や学年部会などで見直し、修正を行ってください。

・来年度、「英語でコミュニケーションDay」として、市内全ALTが一日学校に訪問する企画を予定しています。ご希望のある学校は、2月中に市教委までお知らせください。

文責 学校教育課 稲葉亜希恵